# 災害の精神医学

名古屋大学大学院精神健康医学/総合保健体育科学センター
小川豊昭

## １．神戸の震災について

中井久夫教授の体験：a.自分には、起こらないだろうという思いこみ。b.起こった直後の呆然とした気持ち。c.不眠不休の活躍。高揚感。d.英雄的働き、リーダーの出現。e.地域共同体の連帯感。優しい思いやり。情報網の重要性。（いったんそれが壊れると略奪、暴行の無法地帯になる。）f.疲労感、喪失感。g.避難所の心理。校長への心理的ケア。場所の喪失。帰る場所が無いと言うこと。h.長く残るトラウマ。

## ２．災害の心理。

災害とは、地震ばかりではなく、様々なものがある。最大のものは、戦争であるという。そういう意味で、アウシュビッツや広島の原爆は、人類にとっての新しい災害であるという。西欧の中世では、ペストが黒死病と言って恐れられ、人口の 3 分の 1 以上が死に、人口の減少の回復に 100 年以上掛かったという。

他に、飢饉、洪水、火災、火山の噴火、ダムの崩壊、化学物質の噴出。また交通機関として、船の沈没や、大規模な列車事故や、航空機事故、自動車のトンネル事故なども大規模な災害と言える。

集団で被災する場合の集団心理的特徴。被災カルチャー。連帯感、英雄の出現。排他的行動。生き残った罪悪感。自分は助かったという高揚感。感情の麻痺。長期的には、神経症。

## ３．PTSD の自験例：様々なケース。

a. 工場災害。死の目撃。同僚達への面接。話す相手がいるかどうか。過労。抑うつ。
b. 犯罪被害者のケース。レイプ犯の手口。感情の切り離し。家族の態度の影響。恐怖感、不安感の持続。何もできない抑うつの持続。4 年にわたる治療。
c. 洪水の被災者。抑うつ。幼児期のトラウマ体験の再現としての洪水。5 年にわたる治療。
d. 自殺者の家族。１．夫が子供を連れて無理心中のケース。20 年後。２．恋人が自殺。自分のせいではないかという罪責感。5 年にわたる治療。３．最近のケース。